

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 28日は、低気圧が日本の東を東進し、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 29日から30日は、冬型の気圧配置が続く。
- 31日は、高気圧が日本の南に移動し、冬型の気圧配置が緩む。東シナ海に低気圧が進む。
- 2月1日は、低気圧が本州の南を東進する。

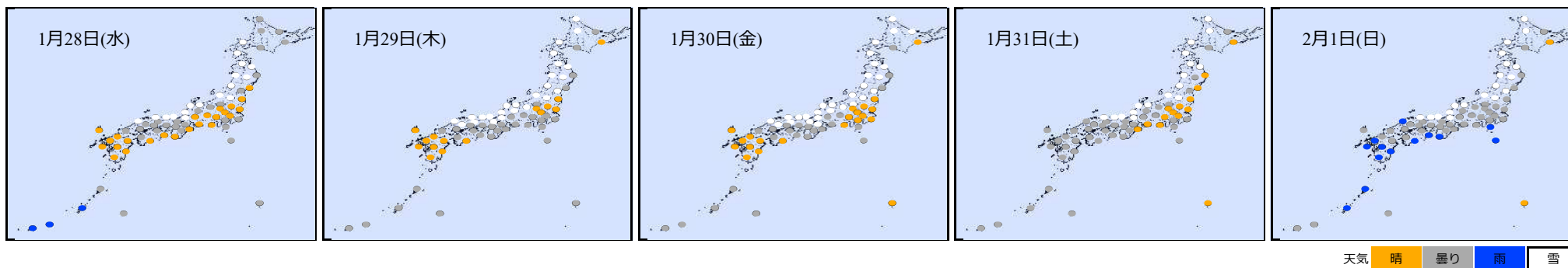
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 29日から30日は、強い寒気が南下するため北日本から東日本の日本海側を中心に大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

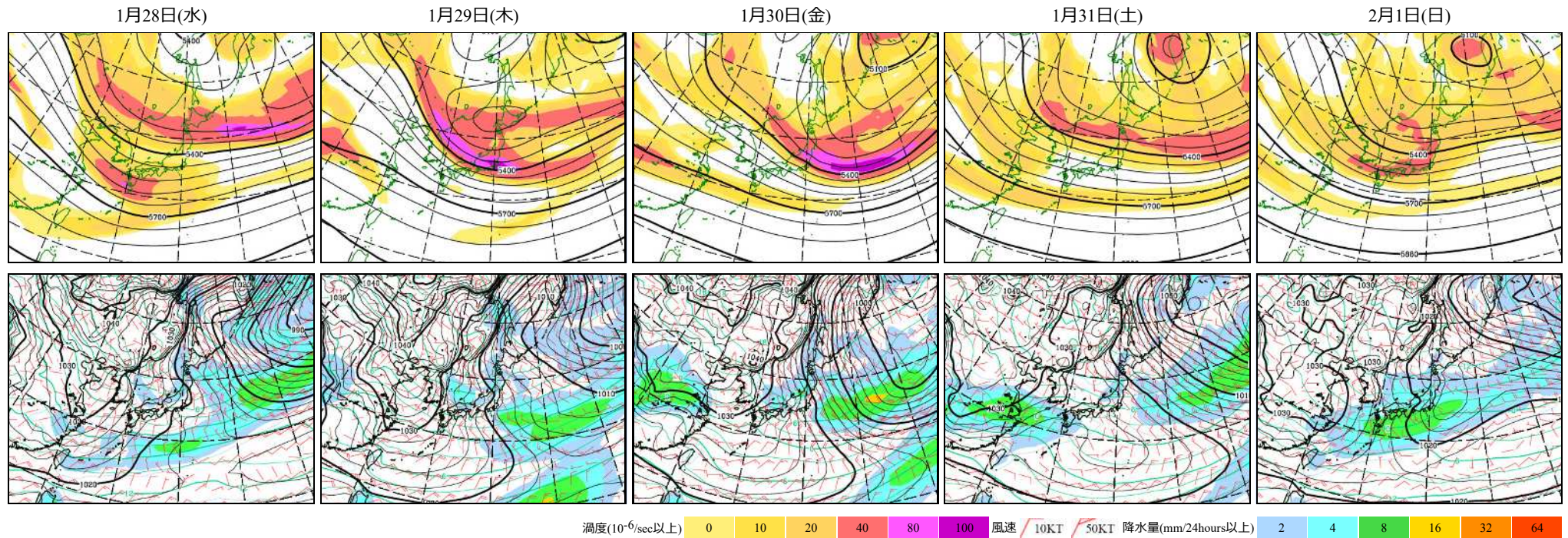
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

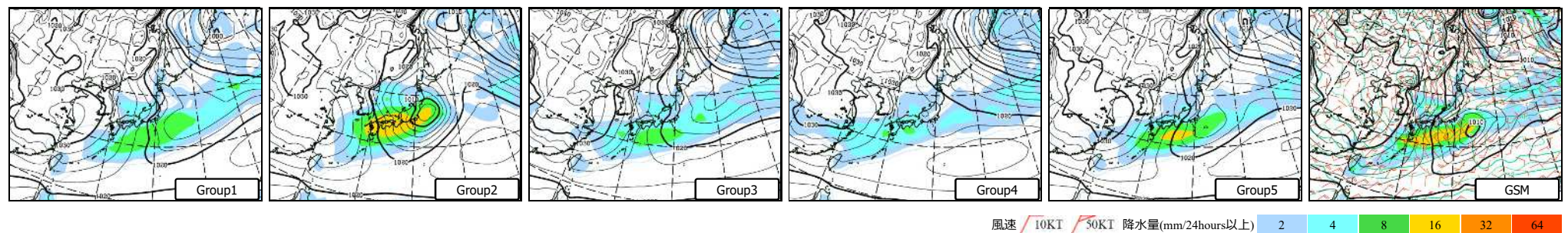


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多いが、2月1日は雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、28日と2月1日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月1日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、上空の流れに大きな初期値変わりはない。地上の気圧配置の予想の初期値変わりも小さい。
- 30日頃まではモデル間の予想の差は小さく、冬型の気圧配置が続く予想でおおむね揃っている。31日から2月1日は、上空トラフの予想や本州の南を東進する低気圧の予想にモデル間の差や初期値変わりが見られる。ENSは、低気圧が発達しながら本州南岸付近を進む予想をするメンバーも3割程度存在する一方、低気圧としてまとまらない予想をするメンバーも含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。